（別紙4）　　平成　22　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4472600776		
法人名	特定非営利活動法人　養老会		
事業所名	グループホーム「養老の泉」		
所在地	大分県豊後大野市大野町大原1186-1		
自己評価作成日	平成23年2月1日	評価結果市町村受理日	平成23年5月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	厚生労働省のサーバーへ移行中につき、現在公表されておりません

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人第三者評価機構
所在地	大分市大字羽屋21番1の212　ﾁｭﾘｽ古国府壱番館　1F
訪問調査日	平成23年3月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

- 利用所の皆さんが毎日笑顔で楽しく過ごせるように支援する。
- 一人ひとりの思いを大切に利用者の中心のケアを心がけている。
- 人として尊重し、また、相手を傷つけない言葉がけをし、相手の話を傾聴する。
- 職員間のチームワークをよくする。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

住み慣れた地域で、馴染みの関係の中で利用者の尊厳を守り、安心してくらせるよう職員全員で支援をしています。理念をもとにグループホームの年度目標を定め、職員一人ひとりが何を大切に向き合うのか日々の中で話し合い確認がなされています。利用者はより家庭に近い環境で安心し穏やかな生活を送られています。職員は理念を共有し、チームワーク作りを目標に、管理者と職員でコミュニケーションを取り、「笑顔」「利用者優先の介護」に取り組み、利用者のケアの質の向上に努めています。

V．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
		○	2. 数日に1回程度
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	簡潔、明瞭な理念をいつも目につくところに掲げ、理念を共有し実践に努めている。	法人の理念を柱に、「健康」「貢献」「笑顔」「利用者優先の介護」「チームワーク」とグループホームの独自の理念を作成し、職員全員で支援をしています。	理念を全職員で共有するため、会議ミーティング等で理念について、再度確認し、職員と共に協議して取り組まれることを期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に入っている。 清掃作業や交通安全の街頭指導に参加している。	地域密着型サービスの意義をふまえ自治会に入会し、地域との交流に努めています。保育園の運動会の参加、ヘルパー実習の受け入れ、花見、夏祭り等地域住民の参加の呼びかけ等交流を図っています。	運営推進会議、自治会の集まり等で「認知症」について理解を得られるよう働きかけ、地域の方が訪れたり、散歩の時に挨拶を交わす等、日常的な相互交流が図れるよう期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議等で、ホーム内の認知症の方のことを話し理解を得るようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回テーマを決めて話し合いが行われているが、外部からの意見が少なくサービス向上に活かしきれていない。 会議の進行の仕方の工夫を検討しているところ。	運営推進会議は2ヶ月に1回、家族を含む15名程度が参加し開催されています。会議では利用者の状況、余暇活動等を報告しホームの諸問題について話し合い、改善に努めています。	外部からの意見を活発に出してもらえるよう、開かれた質問に向けて検討し、工夫しています。会議の結果を全職員で検討し、ホームの運営に活かされることを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	一職員にはその機会がないが、代表者が窓口になり良好な関係が築かれている。 運営推進会議後に相談等をするようにしている。	運営推進会議の参加や、市の担当課に運営状況を報告したり、困りごとの相談や課題解決の話し合いをするなど連携を図っています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について、職場内の研修でテーマとして取り上げ勉強した。 日中の玄関の施錠はしていない。	利用者を中心とし、尊厳を守るケアを提供しており、徘徊等の利用者にも見守りを重視したケアの取り組みを行っています。又職員は研修会で身体拘束による弊害を理解しており、拘束のないケアに努めています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待について、職場内の研修でテーマとして取り上げ勉強した。 虐待は介護者が無意識で行いがちなことも学び、職員の注意を喚起した。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、地域福祉権利擁護事業を利用されている利用者さんがいる。 対応が必要と思われる利用者の御家族には、情報提供をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所契約時に、時間をとって説明している。 料金、損害賠償、終末期についての話は、具体的にするようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御家族には面会に見えた時にお聞きしたり、家族会等で意見をお聞きしているがなかなか出てこない。 利用者からの相談には、全職員がその思いをくみ取る努力をするように心かげている。	法人が発行する「養老会だより」を2ヶ月に1度家族等に配布しています。面会時の家族との会話の中から希望、要望、意見をくみ取り家族の思いを受け入れ、ケアに反映させています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	必要と思われるときは個人的に面談し意見を聞いている。 職員の日頃の声を聞くようにしている。	管理者は普段のコミュニケーションから職員の意見を聞き、職員間で意見交換を行い運営に反映しています。管理者と職員でケアの質の向上に努めています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務体制は、労働基準法にのっとって適正に作成している。経営者も、できるだけ現場に出向き、現状を把握するようにしている。 が、現在、いかにモチベーションを高めていくかが課題となっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	現在、職員研修の年間計画は立てていない状況である。が、月に1度の全体会議では、毎回テーマを決め、研修担当が発表したり、外部講師を招いたりして日常的に学ぶ事を推進している。外部研修にも案内がある時は参加者を募っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	宅老所・グループホームネットワークという組織に参加し、他のグループホームの方との交流をした。しかし、協働しながらの質の向上には結びついていないのが現状でる。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に本人に会いに行っている。 現在、病院から直接入所されて方がいるが、前もって本人に会い行っていればよかったと反省している。会いに行った職員が担当になっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時に御家族の思いも伺うようにしている。入所時の対応は、ホーム長もしくは管理者である。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他のサービスに結び付けるような場面はなかった。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩という意識を持ち、教えてもらう場面を作ったり、一緒に過ごしているという関係から、利用者に労わっていただいたりしている。 意識的に全職員に伝えていっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は、御家族と一緒に支えていっているという意識でいる。面会に来た時に、日頃の様子を伝えることで、ともに本人を支えていく事につながっていると考えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	散髪を、元気なころから利用しているところに継続してしてもらっている方がいる。	初期の段階で対応した職員を担当にし、入所後スムーズに馴染めるよう支援をしています。又馴染みの理髪店に通う人や使い馴れた食器を使う、知人に年賀状を出す等馴染みの関係継続に努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の会話が多い。 一人の利用者が、孤立してしまわないように、座る位置に配慮している。 ある程度、利用者同士の調整力にゆだねている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された方に会いに行ったり、御家族に連絡し、様子をうかがったりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの言葉や表情から、思いをくみ取り、把握するよう努めている。 実現が難しそうな訴えにも、本人の話にじっくり耳を傾け伺い、職員間で解決に向けて話し合っている。	利用者の話を傾聴し、表情や言葉、行動から一人ひとりの思いや意向の把握に努め家族からの助言を受けながら利用者の思いを引き出せるよう支援を行っています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に、御家族よりこれまでの暮らしについて話を伺うようにしている。 入所後も本人や御家族との話の中で情報収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員と利用者がともに過ごす中で、一人ひとりのできる事、解ること等を把握していき、共有するようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリング記録様式を新たに作成し、それぞれの担当者が1カ月に一度評価し、次の介護計画につなげている。	毎日の状態を記録し、毎月のカンファレンスで職員と話し合い、一人ひとりの状態に合わせたケアプランを作成しています。変化が生じた場合は、随時見直しを図り、現状に即したプランを作成しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに沿った記録と、その他に職員の気づきや、本人の言葉などを書き、職員同士で共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	自宅に帰りたい希望のある方を連れて実際に帰ってみたり、病院受診に同行したり等している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所の方に週に一度訪問していただき、一緒に過ごしていただいたり、本の読み聞かせをしていただいたり等している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	3か所の医療機関にかかりつけ医になっていただいている。 定期的に往診ししていただいており、良好な関係が取れている。	個々のかかりつけ医の往診が定期的に行われており、受診に際しては家族との連携をとりその都度対応し、医療機関とも関係を密に結んでいます。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置しているので、相談・報告が取れやすい状況である。 職員の判断対処ができるようになってきている。 後の報告もしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、看護サマリーを作成し、医療機関に送っている。入院後も、病院の相談員の方との連絡を取り、早期退院に向けて調整している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期をグループホームで過ごすことについては、御家族、主治医、事業所の3者の方針が同じ方向を向いていることの重要性を感じているため、状況の変化が見られたら速やかに会議を持つようにしている。その他の御兄弟にも理解をしてもらうことにも配慮している。	早期のうちから利用者、家族の方の意向を聞くようにしており、定期的に主治医も来られ状況に応じて話し合いがもたれ、職員間でも周知して取り組んでいます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年1回は勉強会をしている。 心肺蘇生術については、一覧表にしていて、いつでも復習ができるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	スプリンクラーを整備している。 3か月に一度避難訓練をしている。 運営推進会議でも議題として取り上げた。地域の災害弱者の名簿にも入れてもらえることになっている。	年4回の避難訓練を実施しており、運営推進会議での呼びかけもされています。夜間の避難訓練や自然災害の取り組みの姿勢もみられ、災害に備え自家発電も考えられています。	地域の方の協力体制が実際に得られるよう話し合いや一緒に訓練を行うなど実践的な取り組みを期待します。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライドを傷つけない言葉かけやさりげない支援を心がけているが、職員全員には浸透していない。	理念に掲げている「利用者中心」を職員の方も理解をし、尊重した言葉使いや声かけに、配慮するよう努めています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	場面場面で利用者に合わせ声かけをし、希望を伺うようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課の理解ができる方が少ないため、職員側からの声かけが多いが、本人が嫌がることは無理強いせず、一人ひとりその人らしく過ごしていただくようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髪染めの希望があり、支援した。 自己決定することは難しいが、職員が一緒に、清潔さや良いコーディネイトができるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員が同じテーブルにつき、同じものを一緒に食べている。できる方は準備を一緒にしている。	利用者の好みなど聞く仕組みがあり、要望はメニューに反映されています。又、毎月1回のお茶会もあり、職員と利用者が顔を向き合い一人ひとり自由に食事をされている様子が伺えます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や水分量は、毎回チェック表に記入している。嚥下の悪い方にはとろみをつけている。 食事がなかなか進まない方には、栄養補助飲料を追加している方もいる。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔内清掃を行っている。声かけに拒絶される方もいるが、その時は無理せず、時間をおき再度声かけするようにしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用し、トイレへの声かけ誘導を行っている。 プライバシーを守る声かけや、誘導を心掛けている。	個々のサイクルに合わせ、排泄チェック表を活用しながら対応しています。声かけや、雰囲気により、利用者の様子を観察しており、不安、不快のないよう支援することに努めています。	排泄介助時など利用者の思いを汲んで支援されています、プライバシーを損ねない配慮の取り組みをされていますが、さらなる検討を期待します。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲食物の工夫や運動の働きかけが、なかなか難しいので、下剤投与している。 水分摂取が少ない方には、お茶以外にも好みのものを出している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	午前中を入浴時間にしている。 一人ひとりゆっくり時間を取り、入浴を楽しんでもらっている。	午前中の時間帯に設定しているが、その方の状況に応じて希望されるよう取り組まれています。拒否する利用者もなく、要望により毎日の入浴対応もされています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後、自室で休息してもらっている。 夜は、皆さん良く休まれている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬支援はできているが、時々飲ませ忘れがある。服薬間違いのないように一人ずつ、確実に与薬支援をしていくようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の暮らしの中で、できる方にできることをやっていただいている。団子汁作り、干し柿作り、配膳、テーブル拭き等。 新聞を読んだり、体操したり、散歩したり、日光浴をしたりしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	職員と一緒にホームの周りを散歩している。 自宅へのドライブ等。	年間レクレーション計画に伴っての外出支援が出来ています。又、ドライブや敷地内での散歩をされています。花畑を作りたいという計画もあり、積極的な姿勢が見られます。	一部の利用者だけでなく、車イス対応の利用者も、同じような外出支援ができるような、取り組みを期待します。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人だけ手元に持っている。黒い巾着に入れているお金を見ることで本人がとても安心している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話がかかってきた時、話せる人は本人が代わり直接話してもらっている。家族に電話したいという希望があれば支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日中はホールで皆さんと過ごすが、温度・湿度等に気をつけたり、昔懐かしい曲を流したりして、居心地の良い空間に気をつけている。 生花や植物を飾るようにしている。 季節感を感じていただくように、飾り付けをしている。	共有の場では、利用者の歌声が聞こえ職員の方も雰囲気作りに努めている様子が伺えます。又、ボランティアと一緒に作成した折り紙等を飾り、快適な空間を作られています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	仲の良い人同士や、話が合う人同士が一緒に座れるように配慮している。 別のホールには、ソファーを置いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人愛用の椅子や、家族の写真、家族が持たせてくれた人形や花等でそれぞれ居心地良く過ごせている。	利用者の使い慣れた物など以前の生活環境に近づけるよう配慮がされており、家族の方の心使いも伺えます。又、個人の食器や布団等を活用し、心地よく過ごされています。	居室の環境整備において、利用者、家族が気持ちよく過ごせるよう、利用者と一緒に片付けを行い、更に居心地の良い環境作りを検討していくことを期待します。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの前には、解りやすい案内を掲示している。 建物の構造上、ホールから自室の入り口が見えないところが多いため、誘導させていただいている。		